

めぐみイエス・キリスト教会

2019年6月9日(日)ペンテコステ礼拝
週報「通算第459号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年6月9日 ペンテコステ礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌416 「聖霊来たれり」 p. 668

【交読文】 No.36 詩篇第116篇 p. 908

【賛美Ⅱ】 新聖歌222 「罪の深みに」 p. 336

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章1節～4節(新約p. 209)

【祈 禱】

【説 教】 《ペンテコステ》 鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165 「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【使徒の働き2章1節～4節】(新約p.209)

2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。

2:4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させて下さるとおりに、他国の言葉で話した。

●ポイント1. 主イエス様の十二使徒への約束とは？

※ヨハネの福音書14章16節～17節「もうひとりの助け主」 (新約p.192上段)

14:16 「私は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、共におられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。」

※ヨハネの福音書16章7節～8節「去って行かなければ」 (新約p.193上段)

16:7 「しかし、私は真実を言います。私が去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もし私が去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、私は助け主をあなたがたのところへ遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」

●ポイント2. 主イエス様の教会への約束とは？

※黙示録3章20節「ラオデキヤの教会の御使いへ」 (新約p.441下段)

3:20 「見よ。私は、戸の外に立ってたたく。だれでも、私の声を聞いて戸をあけるなら、私は、彼のところにはいって、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。」

●ポイント3. 私たちに与えられた「もうひとりの助け主」とは？

※第Ⅱテモテ1章7節および14節「パウロの勧め」 (新約p.379上段・下段)

1:7 神が私たちに与えて下さったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。

1:14 そして、あなたにゆだねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって、守りなさい。

※エペソ書4章30節「贖いの日の為に」 (新約p.346上段)

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

◎先週のメッセージの概要【主イエス様の昇天】

《第二主日は聖霊様が降られた「ペンテコステ」となります。しかしその前に、大切な条件があります。それは主イエス様が「昇天」なされることなのです。

「使徒の働き」において、ルカは詳細にわたって説明しています。

『「聖霊があなたがたの上に臨まれる時、あなたがたは力を受けます。そしてエルサレムとユダヤとサマリヤ、地の果てにまで、私の証人となります。」

こう言ってから、イエス様は彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。イエス様が上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、同じ有様で、またおいでになります。」

そこで、彼らはオリーブ山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムの近くにあって、安息日の道のりほどの距離であった。』と書かれています。

大切なことは、「最後の晚餐」を行なったエルサレムのヨハネ・マルコの家の二階の大広間で、イエス様は、再度十一弟子と共に食事をし、十字架にかけられたあの日と同じように、イエス様は、十一弟子と楽しく会話をしながら、そこからゲッセマネの園があるオリーブ山に、歩いて行かれたことです。

弟子たちは、前は不安と恐れにおびえながら、しかし今回は楽しく笑いながら、あるいは、はしゃぎながら、「安息日の道程」を、歩いて行きました。

これこそ、例え何があっても主イエス様は、私たちと共に歩いて下さることの保証であり真実なのです。「私はあなたがたを決して孤児にはしない。」と。

さてイエス様は、公生涯において、ご自身が「昇天」されることを二度にわたって預言しています。夜更けに訪ねて来たニコデモに、そしてパリサイ人や律法学者たちに「いのちのパン」について教えられた時にです。弟子たちは、みな聞いています。この預言の成就こそが「昇天」となります。それを十一弟子、マッテヤとバルサバが見ている目前で、イエス様はなされるのです。

その目的は、まさにご自身が神の御子であることを確信させることであり、聖書に預言された「メシヤ(救い主)」であることを、明確に示されたのです。》

◎お知らせ

※6月16日(日)第三主日礼拝は、メインが午後礼拝(斉藤順子先生)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は、6月12日(水)午後6時15分からです。